

第2章 成果報告①

立教日本語教育実践学会 パネルセッション

日本語科目における TAの活用の可能性と課題

2014年9月17日 於立教大学池袋キャンパス

趣旨説明

日本語教育センター長、異文化コミュニケーション学部教授
丸山 千歌

○丸山 2013年12月には日暮先生、大島先生、スーター先生、徐先生をお招きした企画、2014年6月にはカーディフ大学百済先生をお招きして第2回の学会を開催しまして、今日はその第3回目の企画となります。本日やってみようと考えたのは、パネルディスカッションでして、ここにいます6人が、色々な視点から一つのトピックについて、意見を、報告をして、そして、全体的なことを考えるという、そういう趣旨の会です。

今日のテーマは、日本語科目におけるTAの活用の可能性と課題です。TAというのは、Teaching Assistant ですから、学生が教室に入って、そして受講生ではない、教授側のアシストをこうすることなんですけど、ただこうすることによって、TA自身に何を学び、どのようなものを体得していくのか、今日はその可能性を、考えたいと思います。それについて、今日は一緒にみなさんと考えたいと思っています。

趣旨説明を先にさせていただきたいと思います。日本語教育センターは、2011年に立ち上がったのですが、2012年、ちょうど一年たった翌年からですね、学内の助成金を得て、「中級日本語」という科目を、新しく作りました。「中級日本語」をどうして作ったかというのは、また後でお話し、私の方でこうお話しし

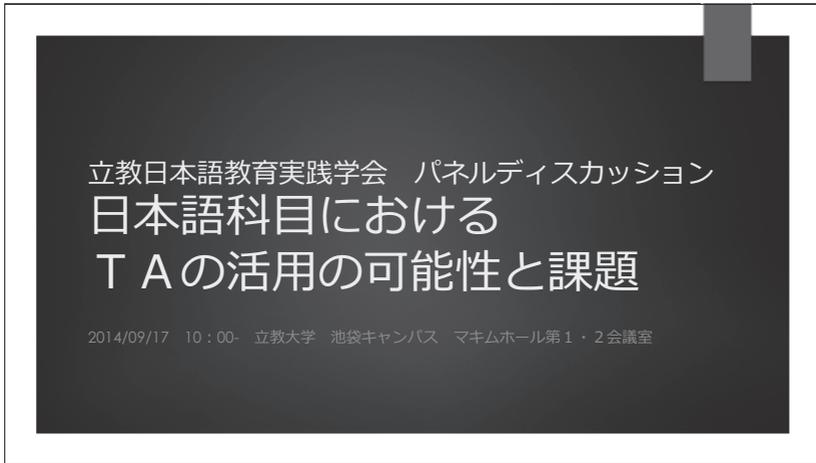
たいんですけども、その企画を考える中での一つの目論みは、この新しい科目の中の、こうデザインに、TA を組みこんでいくということでした。だから学生、日本語を受ける日本語学習者に一つ、目線があり、もう一つはこう、日本語教師として将来育っていく人達に対する目線がありました。【スライド①-2】今日は、その中の、日本語の授業そのものではなくて、もう一つの柱である TA の方に光をあてて、そしてその TA の活用の可能性、そして、課題というのには、どんなものがあるかということについて話し合いたいと思います。【スライド①-3】

登壇者のご紹介を致します。まず本日、一番初めにその中級日本語のデザインについて、私、丸山がお話し致します。その後ですね、このパネルディスカッションをこういいものにしようと、全体で打ち合わせをしたんですけども、その中で、TA になる学生が、どんな風に、どんな背景を持って育ってきているのか。そういったことも知りたい、あったらいい、情報としてあったらいいという話が出てきています。そちらのその日本語教師養成カリキュラムについての報告を、池田先生にお願い致します。そして実際に、その中級日本語の担当者としてのお話を、まず藤田先生にお願いします。藤田先生は、今年度から、この科目をご担当になっています。そして、この科目が出来た時から、ずっと担当して下さっているのが谷先生で、谷先生にもお話ししたいと思います。教師と TA と一緒に、教室に入っている教師から、TA というのがどういう風に見えるのかということについてですね。

そして、TA からの報告については、こちらの二人の学生さんに来ていただいています。まずは、昨年度 TA を経験した西内さんです。そして、今年度の春学期を経験して、これから二学期目に突入していく三浦さんに、登壇して頂こうと思います。【スライド①-4】

本日の流れですが、私が初めにその中級日本語のデザインについて簡単に概要をお話ししていきます。その後、池田先生へと続いていくんですけども、池田先生と私とで、20 分ちょっとぐらいの感じでお話しをして、その後は質疑応答を含めて、各登壇者で 20 分ずつで、お話をさせて頂きたいと思います。最後に、全体討議を池田先生の仕切りの下で行いまして、12 時ちょうどに終える、そういう計画であります。よろしくお願いします。【スライド①-5】

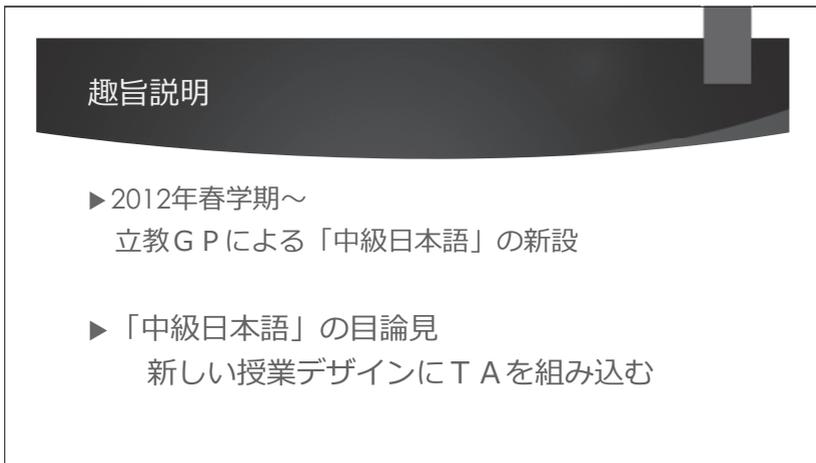
【スライド①-1】



立教日本語教育実践学会 パネルディスカッション
日本語科目における
T A の活用の可能性と課題

2014/09/17 10:00- 立教大学 池袋キャンパス マキムホール第1・2会議室

【スライド①-2】



趣旨説明

- ▶ 2012年春学期～
立教G Pによる「中級日本語」の新設
- ▶ 「中級日本語」の目論見
新しい授業デザインにT Aを組み込む

【スライド①-3】

テーマ

日本語科目におけるTAの活用の可能性と課題

【スライド①-4】

登壇者紹介

- ▶ 中級日本語のデザイン担当者として
(日本語教育センター長、異文化コミュニケーション学部教授 丸山千歌)
- ▶ 学部および大学院の日本語教師養成カリキュラムの担当者として
(前日本語教育センター長、異文化コミュニケーション学部学部長 池田伸子)
- ▶ 2012年度から中級日本語の担当 (日本語教育センター兼任講師 谷 啓子)
- ▶ 2014年度からの中級日本語担当者として (日本語教育センター教育講師 藤田 恵)
- ▶ TA修了学生として (立教大学異文化コミュニケーション研究科言語科学専攻 西内沙恵)
- ▶ 現在進行中のTAとして
(立教大学異文化コミュニケーション研究科言語科学専攻 三浦綾乃)

【スライド①-5】

本日の流れ

- ▶ 中級日本語のデザイン担当者として (10分)
- ▶ 学部および大学院の日本語教師養成カリキュラムの担当者として (12分)
- ▶ 2012年度から中級日本語の担当者として (20分：質疑応答を含む)
- ▶ 2014年度からの中級日本語担当者として (20分：質疑応答を含む)
- ▶ TA修了学生として (20分：質疑応答を含む)
- ▶ 現在進行中のTAとして (20分：質疑応答を含む)

→ 全体討議 20分